



ラボの紹介



こども教育宝仙大学



1. 調査研究の概要

(構成団体:一般社団法人日本臨床心理士会(教育領域委員会))



テーマ

「こころとからだをひらく」ワークショップによる対人関係力向上への試み
～演劇的な手法を取り入れて～

検証内容

活動前後の子供の変化をアンケート等により調査し、子供の気分状態や自己効力感、自己肯定感などの変化を検証

対象

小学5年生～中学3年生

実施時期

R6年10月～12月(8回)

実施場所

大学

活動内容

対人関係力の向上を目指し、演劇的手法を取り入れたワークショップ※を各回ごとに複数実施
(※自分ではない立場に立ったり、相手に寄り添う経験をするワークショップ。ただし、子供の様子をよく観察しながら行った)

活動内容

第1回	演劇手法ワークショップ①
第2回	演劇手法ワークショップ②
第3回	演劇手法ワークショップ③
第4回	演劇手法ワークショップ④
第5回	演劇手法ワークショップ⑤
第6回	演劇手法ワークショップ⑥
第7回	ダンスワークショップ
第8回	アサーションワークショップ

活動概要

2. 調査研究活動の様子(1)



第1回:演劇手法ワークショップ①



2人1組で、1人が手のひらを使ってもう一人を誘導するワーク

第2回:演劇手法ワークショップ②



全員で円を作り、指名された人から手を降ろすワーク

第3回:演劇手法ワークショップ③



2人1組となって行うミラーリングのワーク

第4回:演劇手法ワークショップ④



3人1組で、先頭の人動きに他の2人も合わせて行動するワーク

2. 調査研究活動の様子(2)



第5回:演劇手法ワークショップ⑤



3人1組で「ヤド」(2人組)と「カリ」(1人)になって行うワーク

第6回:演劇手法ワークショップ⑥



棒を使いながら、ペアになって相手と息を合わせて移動するワーク

第7回:ダンスワークショップ



音楽を流しながらシェーハ(じゃんけんダンス)を行うワーク

第8回:アサーションワークショップ



シールを使い、これまでの活動に対する感謝を伝え合うワーク

3. 調査研究活動の関係者の声



参加児童生徒の声

- 様々なワークを実践し、遊びながら学んでいることが楽しかった
- 活動の中で、他の人に対して自分の考えを共有し、同時に他の人の考え方を学べたことは貴重な機会になった
- 他のフリースクールの子供と関わり、仲良くなれたことがよかったし、少し成長ができたと思う
- 普段仲の良い友達はもちろんのこと、他のフリースクールの人やラボの講師・学生と会話ができ良かった

フリースクールスタッフの声

- 子供たちの様子の変化(子供が活動を楽しむ様子や、子供同士の会話が増えたことなど)に対して、保護者から感謝の声があり、フリースクールとしてもよい機会になった
- 普段はアクティブに動かない子供が、活動の中でよく動いている様子を見て驚いた
- 元々コミュニケーションや自己表現が苦手だった子供が、活動を通して人との関わりに対する自信を身に付けた。フリースクールの活動の中では、人の話題を広げることが上手くなり、多人数で話すスキルが大きく向上した

ラボメンバーの声

- 他の人と違っていいということを感じてもらい、それが何かしら子供たちの気持ちを前向きにする後押しになれたらという思いを持って実践した
- 実施前は積極的に参加してもらえない活動内容もあると想定していたが、実際は多くの子供が積極的に参加してくれた
- 回を追うごとに表情や行動に変化が見えている子供もいた
- ワークを通して「他者と関わる楽しさを感じることができた」というアンケート結果もあり、今回の活動に留まらず、日常の中でこの経験を役に立ててほしいと考えている